

9月18日(月・祝)東京代々木公園で、**気候・エネルギー分野の市民運動を加速させるべく新たに発足したネットワークの「ワタシのミライ」、2019年から気候変動解決に向け活動する「Fridays For Future Tokyo」、2011年6月からスタートした「さようなら原発 1000万人アクション」**が初めてタッグを組んだ集会が開催されました。

この企画に幅広い年代層が参加、若い世代のリーダーシップや、熱意・行動力に希望を感じた集会でした。「再エネ 100%と公正な社会をめざして世界の仲間と共に一步を踏み出そう！」をテーマに開催された集会では、メインステージでのテーマトークや音楽ライブ以外にも、テーマにそった50のブースがならび、賑やかな集会となりました。

この集会にシニアネットからは13名が参加、猛暑の中ではありませんでしたが、全員元気に参加してきました。当日の様子を写真と一部記事でご紹介します。

★テーマトーク「脱原発・気候変動運動のこれから」



司会の鈴木ちひろ・山本大貴さん、鎌田慧さん／小出裕章さん／川崎彩子さん

★川崎さん:気候難民の問題に取り組む運動を大きくするには、いろいろな声を集める必要がある。今日はその一步になった。

★小出さん:福島苦難が続く中、他に対策があるにもかかわらず、放射能汚染水が海に流された。政府は海へ流す案しかIAEAに出していない。原発回帰が始まっている今、若い世代の行動に期待している。

★鎌田さん:2012年集会で大江さんは「私たちは侮辱されている」と言った。岸田政権下、福島事故の反省のない政治に今も侮辱され続けている。たたかいを続けなければならない。

★鈴木さん(人にも環境にもやさしい「グリーンな国分寺」をめざす市議):自分たちのテーマを世代の違う人に話すことができ、エンパワーの日になった。

★テーマトーク「ワタシにとってのミライ」 &パレード決起集会



藤本泰成さん／Eriさん／二本木葦智さん／増谷いつきさん

コロナ禍で人が集まらない状況が続いたことを振り返りながら、それぞれがオフラインでイベントをやる意義を話し合いました。

★増谷さん・二本木さん:オフラインがなかった世代の私たち、同じ思いの人が集まることの意義は「自分は1人じゃない」と思えたこと。オンライン世代だからこそ、オフラインの意義を感じている。

★Eriさん(環境問題や気候危機、政治課題に取り組むアクティビスト):コロナの間、孤独だった人たちが、主催したマーチに集まった。「場があること」が大切だと思う。

★会場風景・ブース風景



★シニアネット参加者の皆さん



《 2023年9月18日 東京新聞の記事から 》

反原発＋気候変動防止 ワタシのミライのために声を上げよう 代々木公園でイベント

2023年9月18日 東京新聞

原発にも化石燃料にも依存しない世界の実現を呼びかけるイベント「ワタシのミライ～再エネ100%と公正な社会を目指して」が18日、東京・代々木公園で開かれた。昨年秋まで同公園で開催されていた反原発の集会を気候変動の防止も含めた運動に拡大。イベント後は公園周辺をパレードし、延べ8000人が参加した。



気候変動や脱原発のメッセージを掲げてパレードする人たち＝18日、東京都渋谷区で

◆「政府は約束を蹴散らした」

「さようなら原発1000万人アクション」など3団体の共催。環境保護を訴える音楽ライブのほか、ビーガン料理の屋台やプラカードを手作りできるブースなどが並び、若者も気軽に参加できる雰囲気づくりに工夫を凝らした。

トークショーでは、ルポライターの鎌田慧さんが東京電力福島第1原発事故で生じた処理水の海洋放出に触れ、「政府は福島県漁連の理解が進むまで処分しないという約束を蹴散らした。こんなにばかにされるのは、私たちが反対の自己主張をしていない報い。声を出す文化をもう一度つくらないといけない」と指摘。共催団体の一つで気候危機を呼びかける「Fridays For Future Tokyo」の川崎彩子さんは「原発事故と同じように、世界では気候災害で住まいを追われる人が増えている。今後、年代やジェンダーにとらわれず、いろいろな人の声を集めた運動にしたい」と訴えた。

パレードは公園から渋谷と原宿方面の二手に分かれて実施。若者が行き交う駅前などで「原発いらない」「再エネ100%」などと声を張り上げた。(原田遼)



「ワタシのミライ」のトークイベントで

反原発を訴える鎌田慧さん